

## 調査結果からわかる春日井市の現状

### 【一般市民】

○市民の男女平等に対する考え方として、家庭生活や職場での『男性優遇』の意識が高く、男女が「平等である」との意識は全国と比較して低くなっています。「男女共同参画社会」や「女性活躍推進法」といった用語の認知度も全国より10ポイント以上低くなっています。

○女性が職業をもつことに対する意識をみても、全国調査では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が最も高くなっているのに対し、春日井市では「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が最も高くなっています。これは「子どもが小さいうちは女性は家庭にいるべきである」と考えている市民の割合が全国平均よりも高いことを示しています。

○ワーク・ライフ・バランスに対する理想と現実をみると、全国調査では「家庭生活」を優先している人が「仕事」を優先している人より多いのに対し、春日井市では「仕事」を優先している人が「家庭生活」を優先している人より多くなっています。男性の育児休暇取得についても7割の人が「現実には取りづらい」と答えており、家庭生活における男女の役割分担の偏りが解消されにくい状況を示しています。

以上のことから、市民の男女共同参画に関する意識は全国平均よりやや下回っており、仕事と家庭生活の両立を理想としながらも仕事を優先しがちである、という現状が伺えます。

○春日井市の男女共同参画社会形成に向けた取り組みについて、市民が最も求めているのは、「子育て支援の推進と保育サービスの充実」と「仕事と家庭の両立のための職場における支援の促進」となっています。特に後者は女性での割合が高くなっています。

### 【中学生・高校生】

○中学生・高校生の男女平等の考え方として、平等意識が一般市民より高く、家庭生活では約6割が平等と感じており、学校生活では平等が約5割、女性優遇が約2割となっています。社会全体では3割以上がわからないと回答し、男性優遇が2割以上となっていますが、一般市民の7割以上と比較すると、中学生・高校生は男女が平等と感じています。

○「女らしくしなさい」「男らしくしなさい」は、女子は6割以上、男子は3割以上が言われています。

○日常生活における男女の役割分担において、「力仕事は男子がするもの」は概ねそう思うは、中学生が7割弱、高校生で8割強となっています。また、「気配りをする仕事は女子がよい」については概ねそう思うが中学生・高校生とも6割以上となっており、役割によって男女差があると感じています。

また、「力仕事は男子がするもの」については、女子より男子が概ねそう思うが高く、「気配

りをする仕事は女子がよい」は男子より女子が概ねそう思うが高いと感じています。

「デートで飲食をするときに男子は女子におごるのが普通」は概ねそう思わないは中学生約6割、高校生約7割となっていますが、女子では、概ねそう思わないが中学生・高校生ともに約8割となっていて、男女で差があることがわかります。

- 中学生・高校生は男女共同参画の取り組みとして、「男女を差別するような古い習慣をなくす」「子どものときから、男女平等について家庭でも学校でも学習する」「企業の理解により、父親が子育てや介護等のため帰宅時間を早め会社を休みやすくする」ことに力を入れていくべきだと考えています。

